

# 「岐路に立つ日本政治の行方」 〜2019年決戦を読む〜

共同通信社論説委員長 橋詰 邦弘氏



## ▽参院選の焦点は2つ

昨年末以来、衆参ダブル選はないのかとよく聞かれる。7月の参院選に合わせて衆議院の解散をぶつける。安倍総理の最側近、甘利明選対委員長が「非常に厳しい状況になった時に突破する手立てとしてはある。可能性はかなり低いがゼロではない」と、含みを持たせたことがダブル選

の観測に拍車を掛けた。安倍晋三総理は頭の片隅にもないと否定しているがそれは嘘。総理大臣はいつも頭の片隅に衆議院の解散を選択肢として置いている。参院選は1票の格差是正のため定数がちよつと増えて124議席を争う。選挙区74、比例代表50。改選議席は自民党67、公明党11、立憲民主党8、国民民主党9。参議院で自民、公明の与党が過半数を確保するには53取ればいい。現在の政治状況や野党の力量を見ると、余程のことがない限りクリアするのはほぼ間違いない。自公が過半数割れをしてねじれ国会になると、安倍総理の責任問題が浮上するが、その可能性は極めて低い。

今回の参院選の焦点は2つある。一つは自民が単独過半数を維持するか。もう一つは自民、公明、維新、無所属などの改憲勢力で改憲案発議に必要な3分の2以上を確保できるか。この2点だ。自民は単独過半数のためには67議席を取らなくてはならない。1990年代以降で自民が獲得した最大の議席は6年前の65だった。67のハードルは極めて高い。3分の2のハードルも87必要だ。今の維新の党勢などを踏まえ

**橋詰 邦弘氏略歴** 一橋大社会学部卒。1981年共同通信社に入社、徳島、成田支局勤務を経て本社政治部へ。政治部次長、副部長、ニュースセンター整理部長、編集局企画委員を経て2008年政治部長。その後、人事部長、編集委員室長等を歴任し、18年6月から論説委員。政治記者歴29年と30年近くにわたり政治取材の最前線に身を置き、激動の日本政治の表と裏を取材。最近直木賞作家の高村薫（たかむら・かおる）氏と「21世紀の空海」、政治学者の姜尚中（かんさんじゅん）氏と「思索の旅『1868〜』」の長期大型連載を手掛け、2人と全国各地を回った。サッカーをこよなく愛す現役のシニアプレーヤーでもある。

ると厳しいと言わざるを得ない。立憲民主は改憲勢力の3分の2割れを第一の目標にしている。

## ▽主戦場は全国32の「1人区」

勝敗の鍵を握るのは全国32の「1人区」だ。6年前と「1人区」の数は違うが自民の29勝2敗、3年前は野党が候補者を一本化したため自民が21勝11敗と取りこぼしが目立ち、追加公認を入れても55議席に終わっている。この「1人区」でどれだけ取れるか、主戦場は「1人区」といえる。衆院選と違って選挙区が少ないので計算しやすい。あくまでも私なりの計算で紹介すると「2人区」以上は13選挙区あり、ここで自民が2議席獲得できそうなどころは三つぐらゐとして6。残り10選挙区で一つずつとして16。比例代表は前回19、6年前が18。今の党勢を見ると15プラスアルファぐらいを基礎数として31プラスアルファに全国32の「1人区」で勝つたものを上積みする。自民は「2人区」以上で2人擁立を狙えばいい。例えば兵庫、福岡、神奈川、埼玉、愛知といったところは公明に敬意を表して1人でとどめる。基本的には東

